



## ある図書館

ウォルター・ダンフィー

私はこれまで、アイルランド、ロンドン、オックスフォード、パリ、ローマ、そしてヴァチカンの多くの図書館で研究活動を行ってきた。そのうちのひとつはとりわけ、私の心に残っているものである。かつて博士論文を完成させる間に、論文審査員のひとりに助言を求めなければならなかったことがある。彼の名はジャン・グリボモンといった。そこを訪れた時私は、彼が広い閲覧室の中で座っているのを見つけた。彼の他には誰もおらず、机のランプを除けば、部屋は真っ暗であった。

この図書館は極めて特殊で、しかも風変わりな所であった。そこはローマにある、ベネディクト会のサン・ジェロラモ（聖ヒエロニムス）修道院の一部であった。この修道院自体、聖ヒエロニムスによって5世紀にラテン語に翻訳されたウルガータ版旧約聖書の校訂本を作成するために、70年前にわざわざ設立されていたのである。（修道院の名称もそこから由来している。）60年にもわたる根気のいる作業のほとんどが、この図書館の中で行われていた。

どういった研究なのか簡単に紹介しよう。この修道院は、ベネディクト会系の様々な修道院から集められた、古代キリスト教文献学のエキスパートたちから構成されていた。図書館には、その研究に関連する書物や雑誌の幅広いコレクションがあったが、それだけでなく、ラテン語訳聖書の全写本の写真版も収められていた。なぜ写真版かって？作業を開始した頃は、コピー屋なんてものは考えもつかなかったからである。昔の写本は手書きであった。手書き写本は、非常に読み辛いことがしばしばである。しかも写本は色あせている。そうした何百という数の写本を全てチェックして、比較しなければならないのだ。

修道院の静寂の中、修道士たちのチームは、この骨の折れる作業を60年にわたって行ってきたのである。グリボモン神父を訪れた時、彼は、全17巻のシリーズの最終巻に到達したところだと自慢気に語った。その巻は翌年出版された。シリーズが完結した後、修道士たちは元居た修道院に帰っていった。そして、この修道院と図書館は閉鎖されたのである。

帰り際、グリボモン神父は私を出口まで送ってくれた。それというのも、彼が机のランプを消してしまうと、全くの暗闇になってしまったからである。それでも彼は、私を案内する術をちゃんと知っていた。この経験は、図書館とは、また学問とは何か、ということの象徴として私の内に残った。そこには、人類が過去に何を書いてきたか、ということについての弛まざる探求がある。そうした基礎の上に我々は、現在の暗闇を進むための道しるべを見出しうるのではないだろうか。

（Walter DUNPHY：文学部助教授）

長崎純心大学  
純心女子短期大学

カトリック文庫見学記

笹山 達成

### 1. 長崎は今日は晴れだった

名古屋空港を定刻より 25 分遅れで飛び立った飛行機は 1 時間 20 分ほどで長崎空港に無事着陸した。梅雨の時期ではあったが、途中乱気流に遭うこともなく到着したことをまずもって感謝した次第である。長崎空港からはバスにゆられること 60 分、目指す長崎純心大学は長崎市の北東約 7 km ほどのところにある帆場岳のほぼ山頂近く、恵の丘と呼ばれる丘のうえにあった。ここは文字通り緑豊かなところで大学と同じ純心聖母会が設置した三つの老人ホームの施設もこの丘にある。

学校法人純心女子学園は、長崎純心聖母会を設置母体に 1935 年（昭和 10 年）「マリアさまいやなことは私がよるこんで」をモットーとし、カトリシズムの建学の精神に基づく聖母マリアを理想と仰ぐ女性の育成をめざして設立された。現在は、表 1 のように幼稚園から四年制大学までを擁する総合学園である。今回の訪問の目的であるカトリック文庫は、同じキャンパス内にある長崎純心大学、純心女子短期大学共通図書館の早坂記念図書館にある。

純心女子学園	表 1
長崎純心大学（1994.4 開学）	
人文学部	比較文化学科
	現代福祉学科
純心女子短期大学（1950.4 開学）	
社会福祉科	
保育科	
英米文化科	
専攻科（英米文化専攻、保育専攻）	
純心女子高等学校	
純心中学校	
短大附属純心幼稚園	
聖心幼稚園	
西彼純心幼稚園	

### 2. カトリック文庫

カトリック文庫は、純心女子学園の学園長であった故江角ヤス先生の意志により長崎にあるカトリック系大学の図書館としての特色を出すものとして開設された。この文庫の開設に際して「カトリック新聞」紙上や手紙による依頼により全国各地の教会、修道会、信徒の方々から多くの寄贈資料が集められ、またこの学園にゆかりのある司教の方々からも寄贈があり、これらは「早坂文庫」（日本最初の司教）、「浦川文庫」などとしてまとめられている。資料的には明治以降昭和初期（後に 1962 年の第二バチカン公会議までと広げられた）の日本カトリック教会に関する出版物、新聞、雑誌など内外の文献が集められており、博物館の横の部屋に別置されている。寄贈者の文庫が設けられていない資料群は、明治 10 年代、20 年代・・・と年代順に分けられ、その中は書名の五十音順に配架されている。これは時代とのかかわりの中でカトリック資料をとらえようとしていることを意図しているとのことであった。これらの資料は、当初からコンピュータに書誌データが入れられ、冊子目録が 1985 年に編集発行されている。このときには純心女子短期大学のカトリック文庫の蔵書目録にとどまらず、このような資料を収集している上智大学附属聖三木

図書館、石神井東京イエズス会神学院図書館、東京カトリック神学院図書館、瀬田フランシスコ会図書館、英知大学図書館、大浦大司教館附属図書館からもデータが集められ「日本カトリック関係資料総合目録」としてまとめられた意味深いものであった。その後、10年を経過し、増補版の編集発行が待たれるところであるが、資料の大幅な増加もなく具体的な発行予定はないとのことであった。しかし、コンピュータへのデータの蓄えはその後もおこなわれており、いつでも編集作業にとりかかれる状態だそうだ。私見ではあるが、この総合目録の構想は、今後も引き継いでいただきたいと思うとともに南山大学でもカトリック文庫の資料整理を進め、目録編集に協力できることになればと思う次第である。今回の訪問の時に片岡瑠美子シスター（長崎純心大学教授）から重複本は寄贈することも考えられますとのありがたいお言葉をかけていただいたが、さらにつき進んでお互いに重複本などを寄贈・交換し、カトリック関係の資料群と所蔵情報のネットワークが構築できれば素晴らしいと思う。

### 3. 長崎純心大学博物館

四年制大学の設置とあわせて開設された博物館は図書館内にあり、キリシタン資料（キリシタン文庫）や長崎県下で発掘された土器などの考古資料、郷土資料などが収蔵・展示されている。さらにここには、キリシタン文庫のほか「長崎から世界へ核兵器のすさまじさとその脅威を語り伝える若者、人間の生きる意味と平和の喜びを身につけて行動する若者の育成に期待」して磯村英一氏の寄付による磯村平和文庫も併設されている。この博物館はいうならば長崎がこれまで歩んできた歴史を凝縮した館なのである。ここでは、「宗旨改踏絵帳」「マリア観音像」「板踏絵」「真鍮踏絵」などの常設展示のほか、季節や行事に合わせた企画展も開催され、今回の訪問時には、「写真が語る長崎」と題して文久安政時代の湿板用写真機や大正～昭和初期の長崎の写真などが多数展示されていた。

また、所蔵する貴重なキリシタン資料は、博物館明治村などが開催する特別展などにも貸し出しされるとともに大学創立40周年の節目に長崎県立美術博物館で開催された「造形郷土資料特別展」などで一般に公開されている。

さいごに、片岡瑠美子シスターをはじめ図書館、博物館の職員の方々には大変お忙しいところ貴重なお時間をさいていただき、特に博物館の山田さんには丁寧に案内していただいた。この紙面を借りて厚くお礼を申し上げます。少ない人数にもかかわらず精力的に企画展示をされたり、各文庫の管理をされているのには大変頭がさがります。同じカトリックの大学として、また、同じカトリック資料を扱っていく者として今後ともいろいろとご指導いただければと思います。

（Tatsunari SASAYAMA：学術情報課）

## 資料寄贈者一覧(1994.10~1995.6)

「カトリック文庫」充実のため、下記の方々より貴重な資料を寄贈して頂きました。ここにお名前を掲載させて頂き、改めて謝意を表したいと存じます。

### [個人]

黒崎京（故田北耕也氏の蔵書寄贈・名古屋市）

### [機関・団体]

オプレート会（名古屋市）	神言会管区本部（名古屋市）
カトリック呉教会（呉市）	神言神学院（名古屋市）
カトリック五反城教会（名古屋市）	聖グイゼンシオ・ア・パ 加の愛徳姉妹会（大阪市）
カトリック本荘教会（本荘市）	対イール愛徳修道会管区本部（京都市）（50音順）

## 「カトリック文庫プロジェクト委員紹介」（1995.7.1現在）

**委員長：笹山達成**（図書受入係長） Sasayama, Tatsunari：この分野についても勉強不足を痛感していますが、背伸びせず着実にやっていきたいと思っています。

**委員：伊藤敦子**（図書受入係） Ito, Atsuko：「ジャンヌ」を観た。苦痛に顔を歪め、恐怖におののく、人間味あふれるジャンヌ。伝説の聖女が一層身近になった気がする。

**委員：三浦 基**（図書受入係） Miura, Motoi：カトリック文庫プロジェクトメンバーになり2年目を迎えました。今年度は人事異動でメンバーの顔ぶれも変わり、心機一転プロジェクトに貢献できるよう頑張ります。

**委員：関谷治代**（整理係長） Sekiya, Haruyo：ありとあらゆる宗教に興味を持っています。それは、自分が宗教からかなり遠ざかっている者だからかもしれません。

**委員：大塚利恵子**（整理係） Otsuka, Rieko：キリスト教に関してズブの素人です。初めの一步から少しずつ分かるようになれたらと思っています。

**委員：喜多島晶子**（逐次刊行物係） Kitajima, Akiko：一年振りに返り咲き、心新たに頑張ります。

**委員：尾形裕司**（学術情報課） Ogata, Yuji：ということで、以上の方々と共に活動を続けていきますので、今年度もどうぞ宜しく御願ひします。

### <編集後記>

新体制のもと順調に第4号も発刊できほっと胸をなでおろしています。平穏な世の中になることを切に願って第4号を放ちます。  
(M.M.)

頁数はちょっと薄くなりましたが、内容的に濃いものが、載けて嬉しく思っています。まだまだ未熟ですが、作業を通じて、他の方々と触れ合う場が持てれば幸いです。

南山大学図書館カトリック文庫通信  
カトリコス 第4号 1995.7.1発行  
南山大学図書館「カトリック文庫」プロジェクト  
編集委員：三浦 基、尾形裕司  
〒466 名古屋市昭和区山里町18  
Tel:052(832)3163 Fax(G3):052(833)6986

(タイトルデザイン：加藤富美)